



第16回 ボウリング大会

コロナ禍で何回か中止に追いこまれていたボウリング大会が2年5ヶ月ぶりに、7月2日（土）アーバンボウル豊岡で小学生から大人まで31人参加で開催されました。密にならないように注意しマスク着用でのプレーになりましたが2ゲームを行いました。各レーン共ストライクが出ると盛り上がっていました。

上位入賞（年齢 性別によりハンディが与えられています）

優勝 多田 勝実さん 330点 準優勝 吉井 慎さん 329点 3位 本荘 揚子さん 313点

次回開催時にも、多くの皆さんの参加をお待ちしております。



奉仕作業実施

6月19日（日）ふれあい隊・花水木の会の皆さまにより、宿南ふれあい倶楽部の草刈り、剪定、花壇の手入れを行っていただきました。暑い中、熱中症に気を付けての作業でしたが、花壇には夏の花（マリーゴールド・日日草）が植えられ涼しそうになりました。ふれあい倶楽部周辺は庭木が剪定され、広場も見違えるように綺麗になりました。隊員、会員の皆さまのおかげです。お疲れさまでした。



宿南地区水害対策促進期成同盟会 総会の結果

6月24日（金）書面表決方式により開催され、委員27人中23人提出、賛成23反対0無効0で第1号議案～第5議案まですべての議案が可決されました。

第3号議案の令和4年度役員は下記のとおりです。

役職名	氏名	備考
会長（理事）	吉田 尊文	門前 区長
副会長（理事）	太田垣 均	奥三谷区長
副会長（理事）	林 安宏	町 区長
会計（理事）	片山 博文	川東 区長
理事	内海 博	寄宮 区長
〃	藤盛 頼幸	川西 区長
〃	多田 勝俊	青山 区長
〃	維田 浩之	口三谷区長
監事	田中 靖	
〃	高木 教行	



盆踊り大会 中止



文化部の年間事業計画で8月14日に予定していた盆踊り大会について、コロナ感染症まん延防止のため7月1日の文化部会で中止を決定しました。

身近で見られる植物 ⑭

ムラサキカタバミ<カタバミ科>

昨年、この時期に見られる可愛いピンクの花（ネジバナ）を紹介しましたが、今回もピンクの花を紹介します。ムラサキカタバミは、南米原産で園芸用に栽培されていたものが野生化したものです。葉はクローバーのようなミツバになっていますが、一枚の小葉の片側が欠けたように見えるところから和名で【傍食】と書きカタバミと呼ばれています。

写真の中で黄色の小さな花が、在来のカタバミです。



タウンミーティング開催

6月17日（金）午後7時30分より、市長を迎え「未来の養父市を語るタウンミーティング」が3年ぶりに開催され区民23人が参加しました。

市長あいさつ（令4市政運営の基本方針）、各部局の経営計画説明に続いて、地域課題に関する意見交換が活発に行われ予定の時間を超過して終了しました。



お知らせ

7月21日（木）～8月24日（水）夏休み期間中
ラジオ体操（土、日、祝、盆、雨の日はお休み）

8月 3日（水）第2回体育部会

8月 7日（日）YBfab 野外アート展の作品制作

ねえ、こんな風景見たくない？のチラシ参照
ところ 宿南ふれあい倶楽部

8月15日（月）宿南地区自治協議会 盆休み

ふれあい喫茶 ひまわり 盆休み



草庵先生紹介

日記 41



3冊の門人帳。立誠舎から青谿書院まで35年余で、673人の名前が書かれている

濱葵さん作

池田草庵の門人帳には、立誠舎時代の62人も含めて673人の名前が書かれている。弘化4（1847）年に青谿書院に移ってからも入門者は但馬の人たちが多かったが、草庵の名前が知れわたるにつれて各地からの入門者が増えてきた。「京都川越屋敷留守居 鎌田升三郎来る。入門。升三郎と暮れまで話す。夜もまた話す」嘉永元（1848）年12月20日）これは現在の兵庫県外からの最初の門人であり、最初の武士の門人だった。それまでも、豊岡藩に招かれてその藩士たちに講義したこともあったが、門人帳に武士の身分の人が記載されたのはこれが初めてだ。

その後、全国の各地の藩から次々と入門者があったことが日記や門人帳からわかる。特に、但馬の豊岡藩、丹波の福知山藩、讃岐の多度津藩などからはそれぞれ20人前後の藩士が次々と入門した。但馬から遠いところでは、関東の水戸藩や宇都宮藩、九州の平戸藩などからも入門した。江戸時代の末期になると豊岡藩や四国の徳島藩からは藩主の子息も入門してきた。武士の他に僧侶や医師、神官などの入門者も増えていた。

日記「山窓功課」を解説された西村英一さんの集計によると、673人の入門者のうち、農民や町人などが474人、武士143人、公卿2人、僧侶43人、医師9人、神官2人となっている。

草庵は「私はもともと山陰の百姓の子です」（「謁近藤翁記」から）と書いたことがある。伊予（現・愛媛県）の名高い儒学者近藤篤山に面会を求めめるために手紙を書き、その冒頭で自分を紹介した文だ。

厳しく身分の制度があった江戸時代であるが、「もともと百姓の子」である草庵の学問、識見そして真実に生きようとする姿勢には、多くの人々が身分の違いなどを超えて尊敬した。そして、直接、草庵から学ぼうとして青谿書院にやってきて門人となったのだ。

池田草庵先生に学ぶ会